



小学校特別支援学級で使用する連絡帳における子育て支援機能の事例的検討

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-10-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 阿部, 美穂子, 佐々木, 由奈, 松田, 麻美 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00006693

小学校特別支援学級で使用する連絡帳における子育て支援機能の事例的検討

阿部美穂子・佐々木由奈*・松田 麻美**

北海道教育大学釧路校特別支援研究室

*釧路市立桜が丘小学校

**釧路専門学校こども環境科

A Case Study on the Function of Support for Parenting Included in a Teacher-Parent Correspondence Notebook Used in Special Needs Classroom in Elementary School

ABE Mihoko, SASAKI Yukina* and MATSUDA Asami**

Department of Special Education, Kushiro Campus, Hokkaido University of Education

*Kushiro Municipal Sakuragaoka Elementary School

**Department of Child and Environment, Kushiro college

概 要

本研究では、障害のある子どもを育てる保護者支援の観点から、学校と家庭との連携手段の一つである連絡帳に着目し、それが有する子育て支援機能について検討した。研究にあたり、小学校特別支援学級1年次で用いられた連絡帳1事例1年分を対象に記述内容を分析するとともに、使用当事者の一人である保護者へのインタビューを実施した。その結果、以下の3つの子育て支援機能が抽出された。1点目に、受容的な見方であらえた子どもの姿に関する日常的な情報の共有が子育ての喜びと意欲を引き出すこと、2点目に、保護者の連絡帳の記述に対する継続的な受容・共感、励まし、ねぎらいが子育てにかかる心理的な安定につながること、3点目に、保護者の子ども理解と支援のための、迅速で、かつ個に応じた情報提供やアドバイスができることである。また、子育てに役立つ連絡帳独自の特性として、文字による冷静で客観的なコミュニケーション、繰り返し読むことで導かれる事実の解釈と主体的な子育て実践、記録の蓄積に基づく子どもの成長の確認と子育てに関する新たな気づきの3点が示された。

キーワード：子育て支援 連絡帳 特別な支援ニーズのある子ども 保護者支援
教員保護者連携

1 問題の所在と目的

特別な支援を必要とする子どもの保護者に対しては、子育てに関して早期からの支援が必要であると考えられる。さらにそれは、各ライフステージにおける個別のニーズに応じた内容で、かつ、継続してなされるべきものである。障害の発見や診断がなされることが多い乳幼児期には、医師や看護師、保健師や支援センターのスタッフ、保育士など、医療・保健・福祉の専門家が支援の中心的な担い手であり、子どもに対する直接的な療育・保育はもちろんのこと、保護者が子どもの健全な育成の実践者となることができるように、様々なサポートが行われる。保育所保育指針（厚生労働省、2017）においても、「子どもの育ちを家庭と連携して支援していくとともに、保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資するよう」取り組むことが示されているように、乳幼児期における子育て支援と保育は支援者の重要な責務であるといえる。

一方、文部科学省（1996）では、「家庭教育」という用語を用いて、「子どもの教育や人格形成に対し最終的な責任を負うのは家庭である」とし、家庭における子育ての重要性を指摘している。また、小学校学習指導要領（文部科学省、2017）、特別支援学校幼稚部教育要領、及び小学部・中学部学習指導要領（文部科学省、2017）においても、学校と家庭との緊密な連携が必要であるとして、学校教育と家庭教育が相互に関連性をもって協働する重要性を示唆している。

岩手県立総合教育センター（2017）は、教員向けの啓発資料において、教育相談の観点から学校と家庭との連携には、大きく分けて、「家庭（保護者）の子育てを支援する」ための連携と「教育成果を上げるために家庭（保護者）の支援を求める」ための連携の2つがあると指摘している。家庭の子育てが困難な状況にあると、学校に対する家庭からの支援も得にくくなり、教育効果が低減してしまうのは、学校教育における現実的な問題である。特に障害のある子どもや、発達や行動に

気がかりがある子どもについては、個々の子どもの実態を家庭と学校が共通理解し、一貫した方法で子どもを育てていくことは、子どもの成長発達に不可欠な要件である。よって、保護者の子育てを支援するための連携は、学校教育においても取り組むべき事項といえる。

ところで、学校と家庭の連携にあたっては、相互の情報共有や意思疎通が重要である。そのためには、双方向性のある連携手段が求められる。その一つに連絡帳が挙げられる。特に、特別支援学校や特別支援学級などでは、教員と保護者が日常的に連絡帳を交換している場合が多い。

連絡帳は「家庭と学校の相互の連絡事項を記述したノート」（青山、2016）であり、「中でも特別支援学級に在籍する児童生徒の連絡帳には、日常の児童生徒の様子や保護者、教師の思いが記述されることが多い」（青山、2016）とされる。宮武・高原・足立（1989）は、障害児教育における連絡帳の意義と使用状況を明らかにするため、教員に対しアンケート調査を実施しているが、それによれば、連絡帳の使用目的の第1は「指導の一貫性」であり、その意義と有効性は親との「心の交流・心理的絆」であるとしている。また、安藤（2014）は自らが通常学級担任として、配慮を要する児童の保護者とのやりとりに用いた連絡帳を分析し、連絡帳は、「教師にとって、対象児を多面的に理解するため、また、保護者に積極的に児童の評価にかかわってもらうためのツールであった」こと、さらに、「保護者と担任の連携を強化して互いの不安を軽減させ、対象児の学校参加を促すもの」であったことを指摘している。このように、連絡帳による連携は担任にとって保護者との信頼関係を構築し、子どもに対する教育効果の向上に寄与する効果があるといえる。

一方で、保護者理解の点からも、連絡帳が担任に必要な情報をもたらすものであることが先行研究で明らかにされている。小西・稲垣・松井（2011）は、小学校に入学する発達障害のある第一子をもつ母親が小学校環境にどのように適応していくかを連絡帳の記述に基づき分析している。

それによると、学期初めに母親の心理的不安を反映して記述量が増加することが明らかとなり、この時期に保護者へのサポート型なかかわりが必要であると指摘している。また、竹村（2013）は自閉症のある思春期児童の保護者が連絡帳に記入したネガティブな記述内容とポジティブな記述内容の割合及びその推移に着目し、特別支援学校、家庭そして学童保育の連携の進展に伴う、親子関係及び、保護者の子どもに関する意識変容をとらえている。さらに、中川（2013）は特別支援学校小学部における、ある児童の保護者との担任間で用いられた連絡帳の記述を分析し、そこから保護者の指導観や指導法の特徴を把握でき、今後の支援方法を予測することができるアセスメントツールともなりうると指摘している。

このように、連絡帳が担任にとって教育活動を進める上で有効なツールとなることを明らかにした研究が見られる一方で、障害のある子どもの子育てを支援する視点から、保護者にとって連絡帳が果たす役割に着目した研究は、ごくわずかである。子どもの指導課題に関して、保護者による家庭での主体的な取り組みを促進するという点では、岡村（2015）が、自閉症のある小学部6年生の児童に対し、学校が家庭と連携して生活スキル獲得に向けた指導を実施するにあたり、保護者への肯定的な評価手段の一つとして連絡帳を用いた実践を報告している。

連絡帳は、特別支援教育の場では日常的に使用される、なじみのあるものである。よって、連絡帳を用いるならば、障害のある子どもを育てる保護者を支援するという点からも、学校と家庭との連携を日常的に展開することが可能となる。しかしながら、これまで見てきたように、子育て支援に関する連絡帳の活用可能性の検証はいまだ不十分な状態である。連絡帳は個人的に使用されるものであり、その事例性の高さから、個々の連絡帳を分析する方法により、初めてその手段としての有効性を明らかにできるものとする。そこで、本研究では、特別支援学級において実際に用いられた連絡帳を取り上げ、それに含まれる子育て支

援機能を明らかにし、子育て支援への活用性を探ることを目的とする。

2 方法

(1) 連絡帳分析

Z市Y小学校特別支援学級1年生に在籍するa（男児）の保護者A（母親、当時36歳）と担任（男性教諭、当時38歳）間で使用された連絡帳のうち、入学した200X年4月～翌年3月までの1年間分（以下、本連絡帳と記述する）を分析対象とした。本連絡帳は、1日分の枠が印刷された用紙をファイルに綴じる形式のもので、担任、保護者がそれぞれ記述する欄が設けられている。各欄には、担任からのクラスの全児童に共通した内容の活動報告や連絡、保護者からの個々の児童の体調や食事、睡眠等に関する情報などの定型事項記入欄の他に、それぞれ自由に記述できるスペースが設けられている。本研究では、主として、この自由記述内容の分析を行った。

aはAにとって第1子であり、2歳下に妹、5歳下に弟がいる。就学時に自閉症スペクトラム障害と診断を受けた。こだわりが強く、食べ物の好き嫌いなどが見られた。のちに、特別支援学校に進学し、卒業後は就労支援施設で働いている。

担任は、過去には通常学級の担任も務めたことがあり、Aからの情報では、担任自身にも子どもがおり、Aとはお互いの子どものことについて話すこともあった。

分析にあたり、まず、すべての記述を意味内容ごとに区切ってコードを付し、記述データとした。次に、特に担任の記述データの中から、子育て支援機能が認められる内容を含むものを抽出した（以下、抽出データと表記）。次に、抽出データのうち、毎月15日に記述されたものを集め、類似の子育て支援機能が含まれていると判断された抽出データをグルーピングして、仮カテゴリーを決定した。さらに、仮カテゴリーを手掛かりにすべての抽出データを分類し、仮カテゴリーを修正して最終カテゴリーを決定した。併せて、同様の方

法で、Aの記述データについて、子育てに関連する内容が記述されたものを抽出し、カテゴリーに分類した。

また、連絡帳は担任、保護者の順で記述し、担任の記述を読んでから保護者が記入、または保護者の記述を読んで担任がさらに余白に追記する流れになっている。よって、内容に関連性が生まれ、やり取り記述となっているものも見られた。そこで、1つのトピックに関するやり取り記述データを1単位として、子育て支援機能が含まれるデータを抽出し、同様にカテゴリーに分類した。

以上の分析にあたっては、筆者らと特別支援を学ぶ学生5名で検討し、合意を得たものを最終とした。

(2) インタビュー調査

Aに対し、連絡帳における担任とのやりとりから、Aが得た子育てに必要な情報・手立て、その内容に関するAの評価等について、2018年10月に約2時間のインタビューを実施した。

インタビュー内容は事前に許可を得てICレコーダーで録音し、内容を逐語録化した。その中から、Aが連絡帳から得たとする子育て支援事項について抽出し、連絡帳の分析結果と照合して、得られた子育て支援内容に関する考察を行った。

(3) 倫理的配慮

Aには研究の目的と概要、及び個人情報の取り扱い、さらに、研究結果の公開方法について、口頭と文書で説明した。加えて、すでに成人となっているaに対しては、Aから同様の内容を説明してくれるよう依頼した。両者より、説明内容と研究協力について、承諾書への署名をもって了解を得た。

3 結果

(1) 記述データの概要

193日分の記述があり、担任の記述データ総数は770で、そのうち、子育て支援機能が認められた抽出データは519であった。Aの記述データ総

数は773で、そのうち、子育てに関連する抽出データは399であった。

また、さらに、一つのトピックに関するAと担任の一連のやり取りを一単位としたやり取り記述データ総数は382であった。そのうち、子育て支援機能があると判断された、抽出やり取りデータは292であった。

(2) 担任、及びAの記述に関するカテゴリー分類

担任の抽出データを子育て支援機能で分類したところ、【受容的な見方ととらえた子どもの様子の報告】【成長・発達の見通し】【できるようになったことの報告】【保護者の気持ちや行動への共感的理解や励まし、ねぎらい】【子どもの気がかりな行動の報告】【支援方法の提案・子育てアドバイス】【指導課題の提示】【子どもの気がかりな行動に対する肯定的な意味付け】の8つが得られた(以下、「支援カテゴリー」と表記する。また、【 】は、カテゴリー名を示す)。Table 1に、担任の抽出データについて、カテゴリー名とその定義、支援カテゴリー別の年間データ数とそれが抽出データ延べ数に占める割合、及び学期ごとの抽出データ数と学期別抽出データ延べ数に占める割合、その変化量(3学期の割合から1学期の割合を引いたもの)を示す。分析の経過で、前後の文脈から1つの記述データが複数の子育て支援機能をもつと判断される場合があり、その場合は該当する子育て支援機能ごとに重複してカウントすることとした。よって、担任の抽出データ延べ数は、総数を上回っている。

また、Table 2に、Aの抽出データについて、子育てに関するカテゴリー名とその定義以下、Table 1と同様の要領で分析結果を示す。担任のデータと同様に、分析の経過で、前後の文脈から1つの記述データが複数の子育て上の意味をもつと判断された場合は、重複してカウントした。

担任の抽出データの中で、最も多数を占めたカテゴリーは【受容的な見方ととらえた子どもの様子の報告】(n=323、延べ抽出データ数に占める割合43.0%、以下同様)であり、全データの約4

割を占めた。その他のカテゴリーに含まれる抽出データ数は、多いものでも全抽出データ数の1割前後であったが、【成長・発達の見通し】(n=91,

12.1%), 【できるようになったことの報告】(n=91, 12.1%), 【保護者の気持ちや行動への共感的理解や励まし、ねぎらい】(n=79, 10.5%) など、

Table 1 担任の連絡帳記述における子育て支援カテゴリー別抽出データの概要

子育て支援機能カテゴリー	定義	考えられる子育て支援機能	年間データ数	抽出データ延べ数に占める割合	1学期分	1学期データ全体に占める割合*	2学期分	2学期データ全体に占める割合	3学期分	3学期データ全体に占める割合**	1年間の割合の増減**-*
受容的な見方でとらえた子どもの様子の報告	子どもの行動を受容的な視点で報告する記述	学校での姿を受容的な視点から報告されることにより、安心して子どもの行動を把握できる。	323	43.0%	147	42.5%	110	43.7%	66	43.1%	0.7%
成長・発達の見通し	子どもが今後どのように成長していくかを示した記述	子どもの今後の成長の見通しを得ることで、今後の子育ての目標を設定する手掛かりになる。	91	12.1%	39	11.3%	34	13.5%	18	11.8%	0.5%
できるようになったことの報告	以前はできなかったことができるようになり、子どもの成長が感じられる記述	子どもの成長を実感し、喜びが引き出され、子育ての意欲が高まる。	91	12.1%	41	11.8%	36	14.3%	14	9.2%	-2.7%
保護者の気持ちや行動への共感的理解や励まし、ねぎらい	保護者の心情を思いやったり、保護者の立場を理解したりするコメントや励ましの記述	共感され、受容されることにより、心理的重圧から解放され、子育てに取り組む意欲が高まる。	79	10.5%	37	10.7%	24	9.5%	18	11.8%	1.1%
子どもの気がかりな行動の報告	子どもの気がかりな行動の事実に関する記述	子どもがもつ課題に気づき、改善に向かって取り組む意識が生まれる。	64	8.5%	25	7.2%	25	9.9%	14	9.2%	1.9%
支援方法の提案・子育てアドバイス	保護者の子どもへのかかわり方や支援方法に関する提案などの記述	子どもに対する新しい子育ての方法やそのヒントを得られる。	62	8.3%	32	9.2%	14	5.6%	16	10.5%	1.2%
指導課題の提示	子どもにとって今後取り組むべき課題などが示された記述	子育てで今後取り組むべき課題が明らかになる。	23	3.1%	14	4.0%	7	2.8%	2	1.3%	-2.7%
子どもの気がかりな行動に対する肯定的な意味付け	一見マイナスに見える行動に対し、発達上の積極的な意義を見出している記述	気がかりな行動には理由があることを知り、子どもの発達を多角的に理解する視点を得られる。	18	2.4%	11	3.2%	2	0.8%	5	3.3%	0.1%
合計			751		346		252		153		

Table 2 Aによる子育てに関連する記述のカテゴリー別抽出データの概要

子育てに関するカテゴリー	年間データ数	抽出データ延べ数に占める割合	1学期分	1学期データ全体に占める割合*	2学期分	2学期データ全体に占める割合	3学期分	3学期データ全体に占める割合**	1年間の割合の増減**-*
受容的な見方でとらえた子どもの様子の報告	146	27.3%	83	30.3%	35	23.5%	28	25.2%	-5.1%
子どもができるようになった事項の報告とそれに対する喜び	140	26.2%	42	15.3%	56	37.6%	42	37.8%	22.5%
子どもの行動に対する意味付けや解釈	62	11.6%	40	14.6%	9	6.0%	13	11.7%	-2.9%
保護者自身による子どもへの支援に関する報告	55	10.3%	22	8.0%	24	16.1%	9	8.1%	0.1%
子どもの今後の成長に対する期待	53	9.9%	27	9.9%	15	10.1%	11	9.9%	0.1%
保護者自身の子どもへの関わり方のマイナス評価	29	5.4%	18	6.6%	6	4.0%	5	4.5%	-2.1%
保護者自身の子どもへの関わり方のプラス評価	25	4.7%	21	7.7%	3	2.0%	1	0.9%	-6.8%
担任への助言や情報提供の要求、学校における子どもの支援についての要望	16	3.0%	15	5.5%	0	0.0%	1	0.9%	-4.6%
子どもの気がかりな行動への肯定的な意味付け	8	1.5%	6	2.2%	1	0.7%	1	0.9%	-1.3%
合計	534		274		149		111		

積極的な記述が、より上位となっている。また、変化量を見ると、年間を通して記述数の変化はわずかであった。【受容的な見方でとらえた子どもの様子の報告】(0.7%)、【成長・発達の見通し】(0.5%)、【子どもの気がかりな行動に対する肯定的な意味付け】(0.1%)については、ほとんど変化はなく、【できるようになったことの報告】(-2.7%)、【指導課題の提示】(-2.7%)は、わずかであるが減少し、【子どもの気がかりな行動の報告】(1.9%)は、やはりわずかであるが増加した。

Aの抽出データの中で、最も多数を占めたカテゴリーは、担任と同様の【受容的な見方でとらえた子どもの様子の報告】(n=146, 27.3%)であった。また、【子どもができるようになった事項の報告とそれに対する喜び】(n=140, 26.2%)も、同程度の多数を占めた。また、【子どもの行動に対する意味付けや解釈】(n=62, 11.6%)、【保護者自身による子どもへの支援に関する報告】(n=55, 10.3%)、【子どもの今後の成長に対する期待】(n=53, 9.9%)なども上位となっており、子ども自身や、自らの子育てに関する積極的な記述がより多く含まれていることが示された。年間の変化量を見ると、【子どもができるようになった事項の報告とそれに対する喜び】(22.5%)が、とびぬけて増加しており、そのほかのカテゴリーの変化量は少なかった。やや、減少がみられたのが、【保護者自身の子どもへの関わり方のプラス評価】(-6.8%)、【受容的な見方でとらえた子どもの様子の報告】(-5.1%)、【担任への助言や情報提供の要求、学校における子どもの支援についての要望】(-4.6%)、【子どもの行動に対する意味付けや解釈】(-2.9%)、【保護者自身の子どもへの関わり方のマイナス評価】(-2.1%)などであった。

(3) やり取り記述に関するカテゴリー分類

抽出やり取りデータについて、支援カテゴリー別データ数とそれがやり取り記述データ総数に占める割合をTable 3に示す。

Table 3 やり取り記述に関するカテゴリー分類

子育て支援機能カテゴリー	記述数	割合
受容的な見方でとらえた子どもの様子の共有	88	30.1%
保護者の気持ちや行動への共感的理解や励まし、ねぎらい	79	27.1%
できるようになったことの共有	44	15.1%
支援方法の提案・子育てアドバイスや情報提供など	20	6.8%
保護者が記述した子どもの姿に関する、発達の意義や含まれる子どもの気持ちの確認	20	6.8%
気がかりな行動に対する肯定的な意味付け	14	4.8%
指導課題の提示と共有	14	4.8%
今後の成長・発達の見通しの共有	13	4.5%
合計	292	

担任の抽出データとほぼ同様のカテゴリーが得られたが、やり取りデータならではのカテゴリーとして、【保護者が記述した子どもの姿に関する、発達の意義やそこに含まれる子どもの気持ちの確認】が見出された。また、【子どもの気がかりな行動の報告】は見られなかった。最も多数を占めたカテゴリーは、【受容的な見方でとらえた子どもの様子の共有】(n=88, 30.1%)で、続いて、【保護者の気持ちや行動への共感的理解や励まし、ねぎらい】(n=79, 27.1%)、【できるようになったことの共有】(n=44, 15.1%)であった。上位に挙げられたカテゴリーは、担任の抽出データの場合とほぼ同じ傾向であったが、【保護者の気持ちや行動への共感的理解や励まし、ねぎらい】が、より上位となり、【受容的な見方でとらえた子どもの様子の共有】と同じ程度のデータ数を占めた。

(4) やり取り記述における子育て支援機能の具体例

1) 【受容的な見方でとらえた子どもの様子の共有】

具体例をTable 4に示す。

①では、aが好きな遊びの話題になり、担任は、実際に遊んでいるエピソードに加えて、主体的に片づけができたaの姿を伝えることで、日常生活で、Aが子どもに生活習慣を獲得させていることへの称賛とそのような子育てをする大切さをさりげなく伝えている。また、②では、帰りにチャボ小屋に寄り道をするaの行動に含まれる、aがも

つ問題解決能力を評価する視点を、また、③では、校長室という不慣れた場所に出かけた行動について、行動範囲の拡大を発達的に評価する視点をAに提供している。

Table 4 【受容的な見方でとらえた子どもの様子の共有】の例（やり取りデータ①, ②, ③）

日付	担任	A
4/10	①遊具は大型のものより、教室にある小さめのパズルのようなものの方を好むみたいですね。 ①” ちなみに好きなパズルで遊んだあとはちゃんとお片づけしていました。えらい!	①’ パズルやブロック、粘土など手先を使って遊ぶのが好きです。でもビーム棒渡りやトランポリンも大好きです。
5/13	②’ チャボ小屋の中に秘密めいた小さいドアがたくさんあって、それも気に入っていたようです。それにしても、行ったコースが違うのによく場所を覚えていましたね。	②学校帰り、先生とさよならをしたあと門に行かず曲がったので、どこに行くのかなーと思ったら、なんと！チャボの小屋にまっすぐ走っていきました。(中略) 今日チャボと遊んだことがとても印象深かったのだと思います。
5/31	③” そうそう、aが校長室に現れたと、校長先生が言っていました。本を出したり、ポスターを見たり、戸をあけしめしたり、楽しそうだったようですよ。着々とエリアが広がっています。 ③” 大丈夫です。	③’ 校長室にまで行ってしまったようで、うれしいやら、あらまーという感じです。(中略) 校長先生のご迷惑にならないか心配です。

2) 【保護者の気持ちや行動への共感的理解や励まし、ねぎらい】

具体例をTable 5に示す。

④では、Aがお菓子の袋を開ける練習をしているという話題をもち出した機会をとらえて、「今だからいえるシリーズ」という言い方で、担任も同じ課題に関心があることを示し、「一緒に頑張りましょう」と、学校でも同様の課題に取り組むことで、保護者の取り組みを支える意思を表している。また、⑤では、aが道路で急に叫びだして寝転がったことに対し、Aは自分の気持ちを記述してはいないが、担任がその時に感じたであろうAの保護者としての率直な気持ちを代弁する形で記述を加えている。

述を加えている。

3) 【できるようになったことの共有】

具体例をTable 6に示す。

⑥では、食べ方を工夫することで、苦手な給食のスープをおかわりできたエピソードが担任から報告される。それを受けて、「工夫次第で」という言い方に見られるようにAは、aが受け入れ易

Table 5 【保護者の気持ちや行動への共感的理解や励まし、ねぎらい】の例（やり取りデータ④, ⑤）

日付	担任	A
5/16 (木)	④’ 今だからいえるシリーズその2！そうなんです、パンの袋があげられないんですよ。これもやってるのですが…。どうも保護者指と人差し指でつまんで、そこに力を入れるというのが苦手なんですよね。ということで、いっしょに頑張りましょう。	④家ではストローを使うことがほとんどなく、コップで水やお茶を飲むので、あげられないのかもしれませんが。ちなみに、お菓子の入った袋も訓練中です。
9/25	⑤’ 寝転がったりもするんですね。自己主張はいいですけれど、やっぱり言葉がほしいところですね。	⑤(帰りに) ショップに寄ろうとするので、「家に帰ってからまた来ようね」と言うのと、またギャーツと泣き叫び道路に寝転がってしまいました。

Table 6 【できるようになったことの共有】の例（やり取りデータ⑥, ⑦, ⑧）

日付	担任	A
5/30	⑥キャロットスープ、一口食べて「オエ」になったので、大好きなパンをひたさせたと、無事全部食べました。10分後なんとスープおかわりしました。信じられません!! (中略) すごい、すごい嬉しいです。 ⑦’ いいですよ。	⑥’ スープのおかわりなんて信じられません。工夫次第で食べられるようになりますね。とっても嬉しいです。 ⑦(前略) 学校帰り、温室内の苗に水やりをしているお友達を見て真似しようとしていました。つぼみの畑に水やりをしてもいいですか？ 本人は大好きな水を使ってやる気満々のようですが…。
7/22	⑧’ 今日の給食のスープ、けっこう多めでしたが全部飲みました。えらかったです。	⑧’ スープはいろいろな種類を飲めるようになって嬉しいです。学校だけでも汁物をとればいなくなって思っていますが、夏休みは私もaの飲めるスープを作りたいと思います。

い方法を工夫することで、そのやる気を引き出し、苦手なことや新しいことに挑戦できるという、子育てのコツを発見している。さらに、この報告を受けて、aの挑戦への意欲を後押ししたいという思いが高まったAは、今度は⑦で、自分からaが学校に興味をもった新しい課題に取り組ませたいと提案している。

⑧では、aのできるようになった姿をもとに、Aは、これまで家庭では取り組んでこなかったスープの摂取に、夏休みを機に食材を工夫して取り組んでみたいという意欲をもつようになったことが見て取れる。

4) 【支援方法の提案・子育てアドバイスや情報提供など】

具体例をTable 7に示す。

⑨では、aに対し教えても成果が上がらないというAの訴えに対し、担任が、Aが目標としている行動の意味を発達的な視点とaの心情から解説し、Aの困惑した心情を踏まえて、対面でより詳細に説明することを約束している。さらに、⑩、⑪では、家庭でのaの気がかりな行動について、Aが対応に迷っていると率直に伝えたのに対し、担任が専門家として明確に、どのように対応するのが望ましいか考えを述べ、アドバイスしている記述が見られる。

5) 【保護者が記述した子どもの姿に関する、発達的な意義や含まれる子どもの気持ちの確認】

具体例をTable 8に示す。

⑫では、宿題に出したなぞりがきが期待以上にできたことを驚きをもって報告したAの記述に対し、担任がaにどのような力が身についたことが、それを実現したのかを解説している。また、⑬では、祖父と手をつなぐときのほほえましいaの姿をAが報告したのに対し、担任が「本当にいい感情の芽生え」と発達的な意義について伝え、aにとっての行動の意味を確認している。

Table 7 【支援方法の提案・子育てアドバイスや情報提供など】の例(やり取りデータ⑨, ⑩, ⑪)

日付	担任	A
5/20	⑨' 階段については色々な要因があります。足の筋力だとか、こわさ、だとか…。これは今日、明日できるものではないので、今後お話ししましょう。	⑨マンションの11階まで階段を昇り、景色をながめてまた階段で降りました。「a、足をこうやって降りるんだよ」と交互に降りるのを見せるのですが、なかなか見ず、片足で降りてしまいます…。
9/11	⑩' aの場合、(逃げたり騒いだり)色々ありますが、やはり抱っこはやめた方がいいと思います。少しずつ慣れさせましょう。	⑩この前おふろでシャンプーの時、頭の上からシャワーをかけるととてもビックリしていました。今日またやろうと思ったら、「ギャー」と叫んで、湯舟にシャンプーをつけたまま逃げてしまいました…。横抱きで洗い流すと少し安心したようでした。もう大きくなったので頭の上から洗い流したいのですが、難しいです。
10/25	⑪' これはやっぱりこうするものだと教えた方がいいと思うのですが…どうでしょう？	⑪夜になると出していたおもちゃの片付けでギャーギャー泣き叫ぶようになってしまいました。(中略)泣き叫んでも片付けさせて、こういうものだと思うように続けた方がよいか考え込んでしまいます。

Table 8 【保護者が記述した子どもの姿に関する、発達的な意義や含まれる子どもの気持ちの確認】の例(やり取りデータ⑫, ⑬)

日付	担任	A
8/26	⑫' 広報用の原稿用紙持たせます。直筆で載ります。よろしくお願いします。 ⑫" 分かりますよ、その感じ(笑)。やはり線をきちっと見られるようになってきてるんですね。それにしても伸び盛り、という感じがします。	⑫' 広報の原稿、一緒に手を添えて書きました。でもしっかりなぞり書きをしたので驚きです。(私は添えるだけで、ほとんど力を入れてません。)
11/26	⑬' いいことですね。「がっかりした」なんていうのは本当にいい感情の芽生えだと思います。	⑬学校帰り、おじいちゃんが学校向かいの横断歩道のところで車で迎えにきてくれました。ところが妹がおじいちゃんのそばに走り寄り手をつないでしまい、がっかりした様子でした。歩いている途中で妹が私の方に来たので、おじいちゃんが「a、おいで」と手を差し出すと、急いでおじいちゃんと手をつなぎ、嬉しそうな顔をしていました。(後略)

6)【気がかりな行動に対する肯定的な意味付け】
具体例をTable 9に示す。

⑭では、Aが、aが体力が有り余って、もっと動き回りたいと泣きわめくという、手に負えなかった行動を報告した。これに対し、担任は、「本当に体力ありますよね」と受容的に返すだけでなく、「体育の筋トレもすごくできていますよ」と、aに体力があることを逆に「できている」ことと結び付けてAが気持ちを切り替えられるようにコメントしている。また、⑮では、aが学校帰りに迷子になってしまったエピソードについて「一人で行動するようになってきた」ことを「もっと厳しくしかるべきだったのか」と迷うAに対し、担任は、自主性や探究心の表れと肯定的に評価した上で、連絡を取り合って、安全を確保しつつ、伸ばしていこうとする前向きな考え方を提案している。

Table 9 【気がかりな行動に対する肯定的な意味付け】の例（やり取りデータ⑭, ⑮）

日付	担任	A
6/3		⑭家に入り、ジャンパーを取って外に行こうとアピール。公園に行き芝生で走り回り、帰りには別の公園に寄って、また走ってきました。家まで来たにもかかわらず、気がすまないようで、おじいちゃんと2人で少し散歩しました。それでも満足ではなかったようで、もっと行きたいと泣きわめきました。(中略) 疲れ知らずも、ここまでくると驚きです。
	⑭' 本当に体力ありますよね。体育の筋トレもすごくできてますよ。	
9/12	⑮ (前略) aの中でけっこう大きな変化が出てきているように思います。(中略) 自主的な部分とか探究心とか、そういう部分が芽生えてきたような気がします。(中略) そう考えると、(本当は目を離せないんですが) とてもいい事なんですけど…。(中略) 一番の心配は、やはり交通ルールです。命に関わることなので、この辺りは家庭と連絡を取りながらやっていきたいですね。	⑮今日の帰りは本当に申し訳ありませんでした。そしてありがとうございました。aが見つかってホッとして涙が出てしまいました。あの時もっときつく叱るべきだったかな?と自問自答しています。だんだんと一人で行動するようになってきたので、保護者もすっかりしなくては!と思っています。

7)【指導課題の提示と共有】

具体例をTable 10に示す。

⑯, ⑰は、いずれも学校で担任が気づいた指導課題について、「～したい」という表現で伝えた課題をAが受け止め、家庭でも取り組む意思を示している記述である。学校と家庭で一貫して取り組むことで効果が上がる事項について、直接担任から要望されずとも、話題にただけで、Aが家庭の課題でもあるととらえ、方法を工夫して取り組もうとする自発性が引き出されている様子がうかがえる。

Table 10 【指導課題の提示と共有】の例（やり取りデータ⑯, ⑰）

日付	担任	A
11/26	⑯やはり水（と言ってもぬるま湯ですが）の感触は苦手ですね。トイレでも毎回先の方だけで、ぜんぶしっかり洗おうとするとすごい力で手が逃げます。何とか手のひらをゴシゴシ洗えるようになってほしいな、と思います。	⑯' 家での手洗いも指先なので、可能な限り後ろから手をもって「ゴシゴシ洗うんだよ」と言いながら手のひらと手の甲を洗うようにしています。手を拭くのも指先だけなので、しっかり拭けるように声をかけながら拭かせています。
3/4	⑰ラーメンの汁を飲むときに口からこぼしてしまったので、服とりかえました。ほどよい量でストップするのは難しいみたいで、いつも溢れるというかこぼすので、このあたりは解決していきたいんですけど…。 ⑰' これはいいアイデアだと思います。ぜひやってみてください。	⑰' ラーメンのような汁を家では絶対飲まないの、練習ができません。今度おわんに麦茶を入れてやってみようと思います。

8)【今後の成長・発達の見通しの共有】

具体例をTable 11に示す。

⑱, ⑲とも、担任が記述した、学校でのaの発語が増えたエピソードに関連して、Aが家庭でのaの発語に関連する状況を報告したことに対し、「きっとできる」や、「このようにして習得していくんですね」「言語生活がいよいよ始まりました」という表現で、今後のaの成長の見通しを伝えている。家庭でAが発見したエピソードを踏まえていることで、Aにとって、担任の記述は、a

の実現可能な近い将来の姿として、受け止めることができたと思われる。

Table 11 【今後の成長・発達の見通しの共有】の例（やり取りデータ⑱、⑲）

日付	担任	A
9/12	<p>⑱給食後、やっぱり「プレイルーム」としか聞こえないような発音をしています。</p> <p>⑲”とてもいいことですね。「ゴニョゴニョ」でもいいので、そのうちできると信じてお互い続けていきましょう。きっと、aならできます。</p>	<p>⑱「プレイルーム」と言っていること嬉しいです。(中略) 家ではまだ言いませんが、あいさつ(例えばおはよう、いただきます、ごちそうさまなど)を意識して家族で言っています。aは何となくゴニョゴニョと言っているだけなので、いつかそれらしい発音をしてくれればと思います。</p>
12/10	<p>⑲1時間目、名刺を書き終えて「できたー」、歯を磨いた後「できたー」など、場にふさわしくしゃべります。もっと増えるといいですね。</p> <p>⑲”このようにして言葉を習得していくんですね。aの言語生活がよいよ始まりました(嬉)。</p>	<p>⑲「できたー」が定着してきて嬉しいです。家では、夜お父さんが帰ってきてご飯を食べている時、おかずの冷やっこが欲しくて(大好物です)手を伸ばすので、お父さんが「ちょうだいじゃ」と言う、「おーだい！」と言って食べました。また欲しがるので、今度は「a、お豆腐、ちょうだいだよ」と言う、なんと「おっどー、おーだい！」と言ったのです！お父さん、私、妹の3人で顔を見合わせ、「お豆腐ちょうだいって言ったねー」と喜び合いました。aは食べるのに夢中で、私たちの喜びは眼中になかったようです…。</p>

(5) インタビューに基づく連絡帳の子育て支援機能

Aに対するインタビューの逐語録から、Aが担任との連携から得られたとする子育て支援について、58の回答を得た。そのうち、本連絡帳に記述された内容と関連するものは45であった。さらにその内容を精査し、類似した回答をまとめて整理したところ、連絡帳という手段ならではの独自性のある子育て支援機能が10得られた。その内容とAの発言例をTable 12に示す。

①、②は、連絡帳がもつ、即時応答性による子育て支援効果に関する回答である。気軽に相談したり伝えたりでき、またそれに対する回答を速や

かに得られることについて述べられている。③、④は、連絡帳でこまめに子どもの様子に関する情報が得られることに関するものであり、それが子育ての喜びや意欲につながっていることが述べられている。⑤、⑥、⑦は、文字媒体を使っている連絡帳の特質による子育て支援効果である。後から読み返したり、書かれているエピソードからAが子育てのヒントを考察したり、また、担任が書いたアドバイスを応用したりしたことが述べられている。⑧は、担任からAへの直接的なメッセージによる、子育て支援効果である。Aを励ますメッセージが連絡帳に記述されていたことが、保護者としての不安や障害のある状態でaを産んだことへの負い目を感じているAにとって「本当に」嬉しかったと述べられている。⑨、⑩は連絡帳がもつ、他の連携方法とは異なる機能性に関することであり、直接担任と話ができない時の有効な手段であったり、電話による直接連絡の前に予告的に情報をAに伝える手段として、活用されたことが述べられている。

Table 12 Aのインタビューから得られた連絡帳の子育て支援機能

考えられる子育て支援機能	インタビューでのAの発言
①気軽に考えや思いを伝え、相談できる。	障害のある子なんて初めてだったし、どうやって育てたらいいのかとか、どうすればいいのかわからないから、先生はいろんな子どもを見てきているので、いろいろ話をしてくれる。雑談的なものとかも連絡帳でやりとりすることもあったし…。
②相談したことへの速やかな回答が得られ、相談しやすい。	(保護者が疑問に感じたことに) 答えを書いてくれるから、すぐにいろんなことを書けたかなあ。「ちゃんと考えて書いてくれるんだなあ」って思ったから「何でも相談できるなあ」とも思ったしね。
③日常的に子どもの姿を受容的にとらえて、褒めてもらえることが、子育ての喜びになる。	褒めてくれるのはやっぱり嬉しいよね、「こういうことができましたよ」とか。勉強で「こういうことができましたよ」とか「字が書けるようになりましたよ」とかっていうのを見ると、すごい嬉しかったですね…。1つでもね、毎日何かあったり、「こんな発見がありました」とかって、すごく嬉しい。
④子どもの気がかかりや行動や課題などを、日常的に伝えてもらえることが、子育ての喜びになる。	ちょっとしたことでも書いてくれてね。良いことだけじゃなくてね、やっぱり「こういうことでちょっと…」って、「気になったことありますよ」とかって(書いてくれた)のも嬉しい。

⑤子どもができるようになったエピソードの中から支援のコツに気づくことができる。	なんかこだわりがあって、赤い食べ物を食べないって言うことがあったんだよね。それは先生にも伝えてたんだよね。そうしたら、先生が（イチゴを切って一口分の大きさを変えて）ちょっと視覚的などで変えてくれたから、食べれたんだって思った。（連絡帳を見たとき）、「すごいなあ」って思ったね。
⑥支援方法がエピソードとともに書かれているので、家庭でそれを応用することができる。	連絡帳に書いてくれているので、「こんな時はこんな感じにしたらいいんだな」っていうのは多かったかな。 小さい時はパニックになったりとかがあって、その時どうしたらいいのかとか、「学校ではこういう風にしてますよ」っていうようなこと（教えてくれたり…）。ほっといていい時と、やっぱりぎゅーって抱きしめてあげたりとか関わった方がいい時っていうのがあるから、そういうのを教えてもらえたのは、すごい良かったなって思います。
⑦読み返すことにより、子どもの育ちを振り返って、新しい気づきが得られる。	「あー、こんなことあったんだ」とか「そういういえば、こういう事この時できていたんだな」とかっていうのは確かにあるね。やっぱり記録があると、後から読み返して、そういう気づきが出たりとかもある。
⑧子育ての不安や子どもへの負い目が、子どもができるようになったことの報告や保護者に対する励まし等によって解消され、子育てに取り組む力となる。	すごいやっぱり、aも多分不安だったと思うし、私も全然「学校」が分からなかったから、やっぱり、この子を障害をもって産んじゃったっていう負い目があって「かわいそうだな」っていう思いがあったから、それを軽くしてくれるっていうか…。そういうのが、先生の言葉だったり連絡帳での励ましとか、いろんなできることを書いてくれたりするの、本当に嬉しかったと思います。
⑨担任と直接話ができない時の重要な情報源となる。	子どもが学校に一人で通う練習をするようになると連絡帳が最大（の情報を得る手段）なので、すごく助かるって感じで。
⑩内容によって、直接連絡と併用することで、子育ての課題がとらえやすい。	本当に大変なときは「書くだけじゃ伝わりきれないので口頭でも伝えておきます」って電話をくれる時もあるんだけど、両方（電話と連絡帳）使えるのがいいのかなって思う。

4 考察

(1) 連絡帳がもつ子育て支援機能

1) 子育て支援機能1：受容的な見方でとらえた子どもの姿に関する日常的な情報の共有により、子育ての喜びと意欲を引き出すことができる

担任、Aの抽出データのカテゴリーで最も多数を占めたものは、Table 1, 2より、同じく【受容的な見方でとらえた子どもの様子の報告】であり、Table 3の抽出やり取りデータにおいても【受容的な見方でとらえた子どもの様子の共有】であったことから、このカテゴリーの内容が連絡帳の中心的話題であったことが分かる。Table 12の

③に示したように、Aへのインタビューでも日常的にaの様子が肯定的に担任から伝えられることがAにとって喜びであり、子育ての意欲につながっていたことが示唆される。また、Table 2では、【子どもができるようになった事項の報告とそれに対する喜び】のカテゴリーに属する記述が【受容的な見方でとらえた子どもの様子の報告】と、同程度に多数を占めたこと、さらにその記述数が時間と経過とともに増加していったことから、Aにとって、子どもを認め、積極的に評価した記述は子育ての喜びの源となつたと考えられる。

また、Table 12の④で、Aはaに関するネガティブな情報であってもこまめに伝えてくれたことが嬉しかったと述べている。これは、肯定的な情報を共有する関係がベースにあったからこそ、Aが担任を信頼し、否定的な表現も期待を込めたプラスの意味で受け取ることができたものと思われる。

このように、特別な相談の形態をとらずとも、連絡帳で日常的に受容的、積極的な見方でとらえた子どもの情報が保護者に伝わり、保護者もまた、子どもの情報を担任に伝え、共有できることが、保護者にとっては喜びであり、子育てに取り組む励みとなっている。すなわち連絡帳による日常的な子どもの情報共有が子育て支援として機能するようになったといえる。林（2015）は、保育所における保護者と保育者の連絡帳の意義を分析した研究の中で、「保護者の思いを理解したうえでその子ども姿が見える記述を行うには、保護者が何を求めているのかを理解し、保護者に何をどのように伝えるかという、連絡帳の利用目的が明確であり、一貫性と応答性があることが不可欠」と述べているが、保護者が求める最も重要な情報は、子どもの成長する姿であり、それを身近な支援者と共有できることは、保護者にとって、大きな喜びである。子どもの成長を信じて、それにかかわる情報共有をお互いの第1優先事項にしていこうとする「一貫性と応答性」が、保護者の子育てエネルギーを継続的に生み出すことにつながるといえる。

2) 子育て支援機能2：保護者の連絡帳の記述に対する継続的な受容・共感、励まし、ねぎらいにより、子育てにかかる心理的な安定を図ることができる

Table 3で示したように、抽出されたやり取りデータの多数を占めたカテゴリーの一つが、【保護者の気持ちや行動への共感的理解や励まし、ねぎらい】であった。Table 12の⑧でも、Aが第1子に障害があったことで、どのように育ててよいかかわからず、かつ、障害のある状態で産んだことに対する親としての自責の念から抜け出せないでいたときに、担任が日々連絡帳で追記する、受容的で共感的な言葉が支えとなっていたことを述べている。手探りの子育てに毎日取り組むことは、保護者にとって大きなエネルギーが必要であり、ストレスを感じることも多い。しかし、身近な専門家である担任が連絡帳を通して常に励まし続けてくれることは、機会を設定して行う面談やカウンセリングとは異なり、保護者の心の揺れを安定させる日常的な支援となると考えられる。

田邊・北村・飯室(2006)は、発達障害児の療育の場で用いられた家族と看護師との連絡帳を分析した研究において、連絡帳が家族の精神的安定を図るための有効に用いられている例を支援しているが、本研究においても、学校で用いられる連絡帳が保護者の心理的安定に有効な支援手段となることが示唆された。

3) 子育て支援機能3：リアルタイムで具体的な子どもの情報や保護者の悩みをとらえ、保護者の子ども理解と適切な支援に向けた、迅速で、かつ個に応じた情報提供やアドバイスができる

Table 1, 2, 及び3のカテゴリー分類とその具体例を見ると、子どもの良い行動であれ、気がかりな行動であれ、担任と保護者がaの具体的な行動のエピソードを取り上げて、その行動がもつ発達の意義を共有したり、日常の場面をとらえて、具体的に場面に即した指導課題と支援方法を共有したりしていることがわかる。これらの情報は、いずれも連絡帳が交換される一両日中に共有され

るものである。

例えば、Table 7の⑩では、aがシャンプーを嫌がり、Aが抱いて洗い流したという話題に対し、翌日すぐに担任が抱っこをやめた方がよいとアドバイスしている。また、Table 8の⑬では、学校の帰り道、祖父と妹との関係でaの感情が揺れ動くさまを報告したAの記述をもとに、多様な感情の芽生えがaの発達にとって望ましい事柄であることを担任が追記で確認している。さらにTable 9の⑮では、目を離したすきにaが迷子になり、多くの人々が探し回った前日のエピソードから、今後のaへの対応をどうすべきかと混乱しているAの気持ちが連絡帳に記述された。これを受けて、担任が直ちに、一見身勝手に見えるaの行動が自立心や探求心の育ちの表れであることと、同時に命の危険から自分の身を守る行動を身につけるための支援を学校と家庭が力を合わせて進める必要があることを提案している。

このように、連絡帳では日々起こるエピソードに基づいて、間を置かず、速やかに、具体的な子育てに対する情報提供やアドバイスが行われる。また、当然のことながら、それは一般論として伝えられるのではなく、a個人の実態に即して行われる支援である。Table 12の①及び②でAが回答しているように、連絡帳では気軽にいろいろな内容を書くことができ、また、相談したことに対して速やかな回答が得られるので、保護者にとって相談しやすい相談資源であるといえる。

(2) 子育て支援に有効な連絡帳の特性

1) 特性1：文字による冷静で客観的なコミュニケーションができる

連絡帳では、面談とは異なり、それを伝えている人の感情や表情が直接伝えられることはない。その反面、冷静に事実を伝えることができるツールであるといえる。直接には伝えにくい事柄、たとえば、気が置けたり、感情的になったりしてしまうと言えそうにない事柄や、恥ずかしさが先にたって素直に伝えられない感情を、文字だからこそ率直に伝えられることもある。感謝や謝罪、迷

いや悩みなども、書き手が、自分の心のありようを確認しながら文字に表すことで、冷静に整理して伝えることができる。このような、文字によるコミュニケーションの特性が、事実を客観的に共有することに役立ち、具体的で有効な情報共有やアドバイスにつながると考えられる。

2) 特性2：繰り返し読むことで、読み手による事実の解釈と実践が導かれる

文字媒体である連絡帳は、読み手が自ら意思をもって、そこに書かれた情報に含まれる価値を見出すツールであるといえる。

例えば、Table 12の⑤では、aが赤い食物を食べないこだわりをもって来たことに対して、担任がイチゴを小さく切ったところ、それを食べたエピソードから、Aは、食べたという事実に加え、直接連絡帳には記載されていなかった食べた理由を自分なりに考え、担任が、視覚的な印象を変えよう工夫したから食べられたのだと気づき、そのことが「すごいなあと思った」と述懐している。また、同じくTable 12の⑥では、「連絡帳に書いてくれているので、『こんな時はこんな感じにしたらいんだな』っていうのは多かったかな」というように、連絡帳の記載事項を一つの例として、同様の場面で応用しようとする意識がAに生まれている。

このように、連絡帳に記載された事実を読むという作業を通して、その事実に含まれる子育て上の意味を自分なりに解釈し、実践に生かすという、読み手の主体的な思考と実践が導かれると考えられる。

3) 特性3：記録として読み返すことで、子どもの成長を確認したり、子育てに対する新たな気づきを得たりできる

連絡帳のさらなる特質の一つは、記録として残り、それが積み重ねられていくことである。連絡帳は子どもの成長記録であるとともに、子育ての記録でもあり、担任をはじめとした子どもを取り巻く支援者との連携の記録でもある。

電話や面談での情報は時間がたつとあいまいな記憶になってしまう。これに対し、AがTable 12の⑦において、「『あー、こんなことあったんだ』とか『そういえば、こういう事この時できていたんだな』とかっていうのは確かにあるね。やっぱり記録があると、後から読み返して、そういう気づきが出たりとかもある。』と述べているように、文字に残された記録は、読み返すとその時の状況や感情までもが思い起こされたり、その時には気づかなかった意味や価値を改めて見出せたりすることがある。よって、連絡帳を見返す機会があると、子どもの成長の過程に思いをはせて、保護者の現在の子どものありように対する見方が変化したり、過去の取り組みにヒントや自信を得て、子育てへの新しい意欲が生まれたりする。また、その情報を第三者と共有することで、さらに子育ての喜びを分かち合う仲間が増えたり、新しい子育ての知恵を得られたりする場合もある。

このように、連絡帳のもつ記録としての特性が、保護者にとって財産となり、過去を振り返って、新しい子育てのエネルギーを生み出すことにつながると考えられる。

(3) 子育て支援における連絡帳の限界・課題

これまで連絡帳の特性を生かした子育て支援機能について述べたが、一方で限界や課題もある。

1点目は、書き手の意図の伝達に関する問題である。連絡帳は文字媒体による情報交換ツールであるため、そこに表された情報をどのように解釈するかは読み手に任されている。子どもの気付きや行動について情報を共有する場合、それを今後の支援課題としてポジティブに受け取るか、子どもや自分の子育てへの非難とネガティブに受け取るかは、読み手次第である。文字には「表情」がないため、そこに込められた思いやねらいを正しく受け取るには、書いた相手の心情を想像し、思いやる努力が求められる。よって、書き手と読み手との信頼関係が基盤にあることが重要であるといえる。

とはいえ、これまで明らかにしてきたように、

連絡帳は担任と保護者が継続的かつ、迅速に連携できる数少ないツールの一つであり、学校における子育て支援において有効な手段であるといえる。そこで、連絡帳の限界を補いつつ、その子育て支援機能を生かすためには、担任との直接面談や電話連絡などの他のツールと併用することが必要である。すなわち、直接伝えるべき内容と書面で伝えた方が伝わりやすい内容を峻別することや、電話連絡や面談の後にその内容を補足するために連絡帳を用いること、あるいはTable 7の⑨における担任の記述にあるように、連絡帳で伝えきれない内容や、正確に意図が伝わらないと判断される内容については、面談をして丁寧に説明すること等が考えられる。

2点目に、連絡帳の記入にかかる負担の問題である。連絡帳は毎日記述するものであることから、記述する当事者によっては、負担が大きくなるケースもあると考えられる。気持ちを文章化することが苦手だと感じていたり、書くための十分な時間を確保できなかつたりすると、いくら有効なツールだと分かっているとしても、積極的にそれを使用する意欲は失われてしまう。よって、その負担を軽減するための工夫が必要になる。笹田・新谷・井上・金田(2004)、中川・高岸(2015)は、保育所において、保育者と保護者のコミュニケーションを取りやすくするための方法として、インターネットによる「デジタル連絡帳」の活用を提案しているが、このような例をはじめとして、従来の紙媒体以外の手段を取り入れたり、また、気軽に記入できるフォーマットを工夫したりなど、柔軟な視点から保護者、支援者の双方が負担を感じずに連絡帳のもつ機能を利用できる方法を検討していく必要がある。

5 今後の課題

本研究では、特別支援学級在籍児童1事例に基づいて、連絡帳のもつ子育て支援機能について分析した。しかし、冒頭でも述べたように、連絡帳は個別性の高い分析対象であり、今回のように、

1事例のみを対象とした研究で得られた結果がすべてのケースに当てはまるわけではない。連絡帳が果たす子育て支援機能は連絡帳が使われる場面や頻度、記述の内容量、記述方法、また、学校種、学年、クラスサイズなどによって多様であると考ええる。また、保護者が必要としている子育て支援は、子どもの成長や家族成員のライフステージによっても変化する。以上のことから、今後、多様な事例に基づいて、連絡帳が果たす子育て支援機能を検討することが必要であると考ええる。

学校は、すべての子どもの教育資源であり、同時に、保護者にとっても、重要な子育て資源である。よって、身近な連携手段である連絡帳の子育て支援機能を高めることは、家庭教育力を高め、学校における教育効果の向上にもつながるものである。その意味で、連絡帳のより有効な活用方法が開発され、広く、障害のある子どもを育てる家族の支援に役立てられることが望まれる。

謝 辞

本研究にあたり、貴重な資料を提供くださいましたa氏とその保護者Aさん、担任の先生に、深謝申し上げます。また、Aさんには、インタビューへのご協力もいただきました。重ねてお礼申し上げます。

付 記

本研究のデータは、第2筆者が平成29年度卒業研究「子育て支援としての連絡帳活用可能性の検討」で使用したものであり、本研究の成果の一部には、卒業論文の内容を含んでいる。本研究にあたり、改めてデータを分析し直し、新しい知見を得て、別途、論文化した。また、再分析と論文化にあたり、改めて資料提供者に承諾を得た。

文 献

安藤智英美(2014) 連絡帳を用いた担任と保護者のコミュニ

ニケーションに関する質的研究－特別支援教育の必要な児童に着目して－. 千葉大学授業実践開発研究 7, 61-70.

青山新吾 (2016) 厳しく自閉症児を育てたと話す家族の子育てにおける「家族の流儀」の検討－「連絡帳」の活用－. ノートルダム清心女子大学紀要. 人間生活学・児童学・食品栄養学編 40(1), 1-12.

林悠子 (2015) 保護者と保育者の記述内容の変容過程にみる連絡帳の意義. 保育学研究 53(1), 78-90.

岩手県立総合教育センター (2017) 家庭との効果的な連携の視点, 1.
http://www1.iwate-ed.jp/tantou/tokusi/3point/kateino_renkei.pdf 2018/03/30 閲覧

小西一博・稲垣応顕・松井理納 (2011) 小学校入学時における発達障害児をもつ母親の適応に関する研究－連絡帳の分析を通して－. 上越教育大学研究紀要 30, 11-17.

厚生労働省 (2017) 保育所保育指針 (平成30年度～)

宮武宏治・高原望・足立由美子 (1989) 障害児教育で用いられる連絡帳に関する調査研究. 特殊教育学研究 27 (2), 67-73.

文部科学省 (1996) 第2部学校・家庭・地域社会の役割と連携の在り方, 第2章これからの家庭教育の在り方. 「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」(中央教育審議会 第一次答申).
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/old_chukyo/old_chukyo_index/toushin/attach/1309594.htm 2018/03/30 閲覧

文部科学省 (2017) 小学校学習指導要領 (平成29年3月公示)

文部科学省 (2017) 特別支援学校幼稚部教育要領, 小学部・中学部学習指導要領 (平成29年4月公示)

中川宣子 (2013) 家庭・学校の連携による教育的なニーズに対応した指導・支援Ⅱ－「連絡帳」の活用－. 京都教育大学教育実践研究紀要 13, 185-191.

中川宣子・高岸正司 (2015) 特別支援教育における家庭・学校間の連携システムの構築－「デジタル連絡帳」の活用－. 教育実践研究紀要 15, 173-180.

岡村章司 (2015) 特別支援学校における自閉症児に対する保護者支援－母親の主体性を促す支援方略の検討－. 特殊教育学研究 52(5), 369-379.

笹田慶二郎・新谷公朗・井上明・金田重郎 (2004) 子育て支援を重視したモバイル対応「デジタル連絡帳」の提案－「e-子育てNETシステム」のプロトタイプ開発－. 同志社政策科学研究 6(1), 123-138.

竹村洋子 (2013) 特別支援学校と家庭と学童の連携に関する事例研究－自閉症をもつ思春期児童と保護者への支援－. 田園調布学園大学紀要 8, 49-62.

田邊千夏・北村愛子・飯室みさ子 (2006) 発達障害児の

療育の場における家族支援：連絡帳の記載内容の分析から. 山梨県立看護大学短期大学部紀要 11(1), 81-95.

(阿部美穂子 北海道教育大学釧路校教授)
 (佐々木由奈 釧路市立桜が丘小学校教諭)
 (松田 麻美 釧路専門学校こども環境科非常勤講師)

